



# 診察室の午後

白浜はまゆう病院  
泌尿器科部長 川嶋 秀紀

大学を辞め、白浜はまゆう病院や地域の診療所での診療に専念するようになった。1年近くたつが、いまだに医学論文査読の依頼が時々舞い込んでくる。マイナーな医学雑誌からの依頼もあれば、そこそこ有名な雑誌からの依頼もある。

一般に研究機関で行われた研究成果は論文にまとめられると、査読という審査過程を経て学術雑誌へ掲載される。査読では、同じ領域で研究している他の研究者が、投稿された論文の評価・審査を行うシステムを取っている。

## 〈8〉 査読(さどく)

最近、医学研究に関する不正が報道されたりするが、論文の査読は基本的に難しい。雑誌の編集委員(有力な研究者で構成される)があらかじめふるいにかけてから査読者に依頼していることも多いようだ。原稿は英文であり、読むのに労力を要する。しかも締め切りがあり、良い雑誌だと2〜3週間くらいで査読結果を返事しないといけ

は性善説に基づいている。真理を探究するための研究であるから、うそを書いて意味がない。研究活動は研究者のモラルに根差しているからこそ意味がある。また、捏造(ねつぞう)、改ざん、盗用などの不正があったとしても査読の段階でそれらを見抜くことは非常に

査読の結果は、全般的な講評を述べた後、研究・実験結果の個別の点について指摘していく。そして意見を「採択」「大幅な改訂が必要」「少し改訂が必要」「不採択」のいずれかとして編集者に伝える。

一方、自分の論文を投稿した場合、査読者から良識がありポイントを突いた丁寧なコメントを頂くことも多いが、中には厳しい攻撃的な意見もある。

確かに研究活動も競争であり、論文数が多く評価が高いほうが研究費の獲得につながるし、研究の継続に必要な地位を確保できる。研究のモチベーションは好奇心や疑問の解決や真理を探究する喜びであるのだから「職業的研究者」となることその趣が変わってくるよった。